

岩高短歌
「ワタシタチノウタ」
月間優秀賞作品 R5⑦

発行者
岩出山高校
国語科

優良賞

話すたび白い煙が飛び出して手が赤くなり温まる冬

〔十一月〕 紫色・冬のもの・岩高祭・マラソン大会

月間賞

ステージへ胸を躍らせ飛び出すと輝くライトが私を照らす

第二席

雪遊び寒くてすぐやめ家入る雪がつもる外置き去りの手袋

第三席

坂下の子供が作る雪だるま可愛らしくて寒さが消える

田んぼ道犬の足跡たくさんで冷えた心も暖かくなる

息を吐く白くて少し暖かい吐いた息に切なさ込める

だんだんと寒さがつよくなってきてストーブかこむ教室の中

茜さり変わっていくのは空模様澄んだ空気は冬の訪れ

樹木さへ生まれ変わりゆく初雪に指先が触れ白く震える

よーいどん秋晴れのなか走り出す上がる息は白息に変わり行く

仕事終えふと見た冬の星空でオリオン探し四苦八苦する

帰り道冷たい風が頬なでる冬を感じてマフラー求む

ひらひらと空から降る白雪を捕まえられず手に消えてゆく

朝行きて息吐き白く溶けてゆくふと空見やれば曇りなき青

岩高の地獄の坂を登りきるこれも最後と寂しいかな